

特定非営利活動法人 A SEED JAPAN 第 9 回通常総会議事録

1. 開催日時 2022 年 7 月 23 日（土） 14 時 00 分～17 時 00 分
2. 開催場所 オンライン（Zoom 利用）
3. 出席状況 正会員総数 85 名 有効数 52 名（出席 8 名、委任者 24 名、書面表決者 20 名）

以下、敬称略

出席役員：濱田恒太郎、三本裕子、大坂紫、田川道子、鈴嶋克太

欠席役員：矢口拓也

出席正会員：大村哲史、呉眞宇、小川暁平

オブザーバー（マンスリーサポーター）：富田一

4. 議決権総数 52 名 有効議決数 52 名（うち出席 8 名、委任 24 名、書面表決 20 名）

定刻、司会より、議長として濱田恒太郎を指名することの提案があり、これを諮ったところ全員異議なく承認した。その後、定足数の確認を行った。有効出席数及び有効議決権数について確認をし、直ちに議案の審議に入った。

5. 議 事

第 1 号議案 議決事項 1：2021 年度事業報告

【議決】

◆承認 52 名（うち出席 8 名、委任 24 名、書面表決 20 名）、反対 0 名、棄権 0 名

各プロジェクト・チーム担当理事より 2021 年度活動報告について説明を行った。

【担当者からの補足説明】

■事務局報告

小川：

年間を通して、完全に 1 人体制だったのは初めてだった。会計に関しては、2020 年度分の決算を西島が、2021 年度分の決算を富田が担当した。役員については、2021 年度は田川が復帰した。

移転に関して、2022 年度の出来事ではあるが、告知の段階で移転先が決まっており、本日の時点で移転済みということで、報告させてもらった。手狭にはなったが、大きな問題なく活動できている。家賃が少し低くなったが、引っ越し費用はかかっているの、その分が相殺されるまでは 1 年以上かかってしまう。

対外的なイベントに関して、2020 年度はイベント 3 本だったが、2021 年度は 11 本実施できた

ので、約 4 倍になった。また、2020 年度の 3 本のうち 2 本が講師派遣なので、活動的なイベントが増えたといえる。報道採録も、2020 年度は 0 本だったのに対して、2021 年度は 2 本に増えた。

■ アクセスラボ

濱田：

オリエン後の活動メンバーの定着という部分に課題を感じており、その点をフォローする為に活動した。実際に鈴嶋をはじめ、新しいメンバーが関わる機会となった。当初打ち立てたやり方は、メンバーの関心に合わせた課題設定を考えていた。課題図書を読んで話し合うという場を持つなどテーマに沿ったインプットの機会を個別に設けた。体制的に難しく、オリエン後にすぐ問題意識に寄り添いつつ、ESG ウォッチプロジェクトにつながる流れなどができた。当初の計画とは違いアクセスラボとしての形は持っていなかったが、活動メンバーとして活動を続けているメンバーが生まれているところが一番のポイントである。

■ コラボ勉強会

濱田：

多くの学生が参加してくれた。NPO iPledge と協力した部分が大きかった。募集段階で、広報ツールとしての peatix や activo の広報力を実感する機会となった。ASJ でも登録はしていたが、活用はできていなかった。また、近年あまり関りを持ていなかった OGOB メンバーである、市瀬さんや井上さんなど、改めて企画を通じて繋がることできた。計画していた回数は達成できなかったが、コラボ勉強会が起爆剤になったと思う。

■ 30 周年

大坂：

30 周年企画は、10 月に行った。ASJ では、これまでハイブリッド開催をしたことがなかったと思うが、この機会にノウハウを得ることができた。Facebook グループは、多くの OGOB が参加してくれているが、投稿は現役メンバーがメインになっている。現在の活動を投稿するなどして、活発化させていきたい。

■ エコ貯金ラボ

田川：

コラムの定期的な更新ができていないのが課題。情報発信の方法についても、Facebook からツイッターを中心に切り替え、フォロワー 50 人を目標に変えた。現時点のフォロワー数は 20 人であり、ツイートをもっと増やしていかないといけないと考えている。

第2号議案 議決事項2：2021年度決算

【議決】

◆承認 52名（うち出席 8名、委任 24名、書面表決 20名）、反対 0名、棄権 0名

会計担当より、2021年度決算について説明を行った。

【担当者からの補足説明】

富田：

収入面において2019年度までは助成金の割合が大きかったが、2020年度・2021年度は助成金収入がなかった。事業経費が2020年度と比べてかなり増加した。これは、2020年度に比べて、2021年度の方が活動が活発になっていることが事業経費にも表れているということになる。ASJの財産（銀行預金等）の推移は、2016年度から比べるとそれ以降赤字なので徐々に減っているが、今年は少し歯止めがかかって、傾斜が緩くなっている。支出も削減してきている。今年度収入は、前年度より微増し127万円となった。V字回復したらよいと思う。

■議決事項に関係のある正会員からの事前にもらったコメントを紹介

※別途資料参照

【質疑応答・意見交換】

※議決の前に、議決事項1及び、2について、合わせて質疑応答を行った。

大村氏：

自身が参加した中でこんなにも現活動メンバーが中心となる総会は初めてだと思う。そしてさらに新メンバーである呉さんが参加してくれていて素晴らしい。私も活動に励んでいる今、理事の皆様やASJの現況も承知しているつもりだが、敢えて質問をしたい。

1点目として、もう少し聞きたかったのが会費の部分である。SPRING会員が8名ほど減っている。その理由等詳しい話を聞きたい。2点目は、財務状況について。事前コメントのように、後5年は「貯蓄で賄える」ということだが、逆に言えば「5年しか持たない」とも言える。助成金獲得は、鈴嶋さんを中心に頑張ってくれているのを知っている。先ほどの会費の件も踏まえて、その他財務戦略をどう考えているのか説明してほしい。

また富田さんには決算報告をしていただいたが、「これからどうすれば良いのか？」「どこに課題があるのか？」、難しい部分もあると思うが、会計のプロとしての視点で教えて欲しい。あるいは中間支援組織の視点として三本さんからの意見でもいい。

（回答：会費・SPRING会員が減っている件について）

小川：

具体的にどうしていくかは、オリエン担当の鈴嶋や濱田から話があると思う。私の分かっているところで話す。会員を辞めた方の理由としては、「関わりが遠くなった・薄くなった。」「他の団体に使っているお金を使いたい。」という理由が多かった。また、当初登録した口座を使わなくなった場合などは、残高不足で引き落とせず、2年連続で引き落とせないと強制的に退会になる場合もある。

単年度会員の場合、以前は対面で現金のやり取りができたが、活動のメインがオンラインとなり、その機会がなくなり徴収がしづらく、それで減っている部分は大きいと思う。同時に、例えば2019年度は、オリエンの時にそのまま入ってもらうケースもあった。

濱田：

会員を増やしていくところは、SPRINGができた当初から支えてくれている人もいる中で、こちらからの報告的なところが至らず辞めてしまう方もいた。関係性としては引き続きだが、寄付先を変えたいという意見も共有されている。新しいメンバーを獲得して、しっかりやっていくことはアウトリーチ企画として学生メンバーに働きかけるといことをやっている。それについては鈴嶋から紹介できたらと思う。

鈴嶋：

2022年度の会員獲得に関して回答する。peatixやactivoを使っの募集や大学のボラセンに対しても新たに連絡を取ったり、広報先リストの情報を整理した。4～6月とオリエン実施し、1名ずつ参加してもらえた。オリエンの申し込み自体はもっと多い。申込の後のやり取りが、上手いかず、実施に至らないことが多かった。

小川：

申し込みは増えている印象がある。連絡が途絶えることは以前からもあったが、割合が増えている。データが少ないのでまだ何とも言えないが、学生が増えている印象があり、偏見かもしれないが、「学生だから」という理由もあるかもしれない。

濱田：

時間と曜日まで詳細に候補日を聞いているにも関わらず返信がないことがある。去年は、申し込みの数は少なかったが、連絡が途絶えることは少なかった印象がある。新しい取り組みとして、通常のオリエンに勉強会の要素を加えたものを考えている。

三本：

ご説明いただいて良かったけれど、工夫などは次の議題時の意見交換でもいいかもしれない。

(回答：財政に関して)

富田：

財政上の現時点の問題点に関して、個人的な意見かもしれないが説明したい。2016年度が、

ASJとして黒字だった最後の年度である。2021年度は、164万円の赤字だが、2017年度以降、赤字の金額は一番小さくなっている。2016年度と2021年度の比較で目立つ細目は「助成金」であり、2016年度の助成金は約656万円と金額が大きい。当時いくつかの助成金をもらっていて、家賃や人件費、交通費を賄っていた。当時と比べると活動メンバーの人数、活動の種類は比較が難しいが、メンバー全体の活動時間の合計を比較すると、総活動時間が減っていると思う。もちろん、全体の人数が減ったのもあると思うが、その点を考慮しても減っていると感じる。そこに比例して会費の金額も減っているし、寄付の金額も減っている。全体として現在の黒字になっていない大きな原因なのではなかろうか。

今後、今年は助成金を得ることができるという想定で進んでおり、事務局の人件費や人数を2021年度と比べて増加させている。会費や寄付の金額も増やしていく方向で動いていると認識している。まずは、活動を増やすということが、赤字を減らすという意味で根本的ではないかと思う。経費の切り詰めはできる限りして、毎年減っていて、改善したところもある。2021年が底なのでは。これからは活動を増やして、V字回復して欲しいと思っている。

ASJの構造上の問題点もある。2016年度事務局で私も活動していたが、助成金に依存しすぎているという議論があった。2015年までは、アースデイ東京の事務局を受託していた。その頃はそれらの事業収入があって、さらに助成金もあってバランスが良かった。今は事務局の受託収入がないので、助成金以外の収益改善を一度に解決するのは難しい。段階的に改善させていくことが重要ではないか。参考までに、ごみゼロの事業収入があった時代があった。なお、これらはあくまで個人的な見解である。

大村氏：

2つの回答ともに理解できた。財政の解説は勉強になった。会計報告は、単に数字を見るだけでなく、どこが課題かを理解しないと次年度予算の編成が難しくなる。NPO会計に強く、ASJが大好きな富田さんがいることが強い点だと思う。今後ともよろしく願いたい。

濱田：

総会では、毎年活動や会計の報告と同時に、今年度の活動に向けて、会員の皆様に意見をもらっている。会計の部分など、分かり難い部分もあるが、気にせず、気軽に質問をしてもらえればと思う。

小川：

近年の流れについて補足したい。2019年度まではフルタイムスタッフがいたが辞めてしまった。2020年度から仕切り直しの様な模索の期間。いったん終わった活動も多く、2020年度はほぼ活動がなく、最後にコロナ勉強会を開催することができた。2021年度頑張っ、今に至る。ESGウォッチもできて1年くらい。2021～2023年度の3か年計画というのも理事会として出している。

鈴嶋：

富田の話にあったように、助成金に依存するのは良くないけど、急に寄付や会員は増えない。寄付や入会は一人ひとりの善意に基づくものなので、お願いしても必ずやってくれるとは限らない。とりあえず、今年度は助成金を頑張る必要があると思って申請している。かつては助成金を中心じゃない時代もあったということで、柔軟に幅広くファンドレイジングを考えていきたいと思う。

6. 報告

報告事項 1：2022 年度事業計画

各プロジェクト・チーム担当理事より 2022 年度活動計画について説明を行った。

【担当者からの補足説明】

■ エコ貯金ラボ

田川：

Twitter の頻度を高めていきたいが、方向性について悩んでいる部分もある。金融が社会をよくすると信じていたが、「そもそもいい社会とは何だろう」と思うようになってきた。「武器やアルコールへの投資は NG」などという意識が ESG の基礎となってきたと思うが、ウクライナの戦争で「武器は ESG に反しない」という思想が生まれたり原発もグリーンエネルギーという考えが強まったり、インフレがすごく進んだり、環境問題より今どうするかという意識が増えているように感じる。これらを受けて、これまでお金の流れが社会をよくするという考え方に揺るぎがなかったが、最近はそれよりもっと前に考えることがあるのではないかとこの悩みがある。難しいと感じていて筆も進まない。計画通りにいかないかもしれないが、考えなければいけない大事なことだと思っている。ちょっとずつ進めていきたい。

■ ESG ウォッチプロジェクト

鈴嶋：

※資料参照

■ OGOB ハブ 30

大坂：

※資料参照

■ 生きる働く企画

濱田：

※資料参照

小川：

開催や収録をした3回の中で、試行錯誤しながらフォーマットができてきた。4月以降忙しく、進められていなかった。動画の編集のルーティン化が課題。ゲストの選定において、30周年のパネリストの様な人ではなく、中間層にフォーカスしようという意識もある。ただしもちろんそこに拘っているわけではない。もっとたくさんの人にお話を聞いていければと思う。

報告事項2：2022年度予算（案）報告

2022年度予算について説明を行った。

【担当者からの補足説明】

濱田：

申請中の助成金額は、トータル290万円分になる。8月末や9月から10月の間などに結果が出てくる（*）。今年度は積極的にやっていく予定。

（*）理事会補足：申請を行いました但2022年11月現在は獲得できていません

小川：

移転によって、家賃・水道光熱費が、合計6万3,000円から、4万円になり、2万3,000円下がった。総会資料作成時は、移転費用と家賃は、決まっていなかったため、反映できていない。移転費用が約37万円ぐらいになる。1年では償却できないぐらい。（差额的には37万÷2.3万=約16か月分）

濱田：

予算案としては、赤字予算になっている。助成金が家賃や人件費に充てられるものもあるので、解消できればと思う。

富田：

予算案に関して補足する。家賃・水道光熱費は、4-6か月分は今までの通り。7-12月の9か月分が安くなり、予算よりも、年間20万円ほど削減できる計算になる。今年の引っ越し代の計上の仕方によっては、ちょっとだけ赤字が増えるかもしれないが、2023年度は30万円弱家賃が減る計算となる。2023年度の予算では、もっと金額が減る見込みである。助成金関係、現時点で助成金が確定しているのはあるのか。

濱田：

まだない。結果は、8月以降になる（*）。

（*）理事会補足：申請を行いました但2022年11月現在は獲得できていません

富田：

確定している助成金がまだないとのこと了解した。ちなみに、100万円の助成金が取れたとして、予算より多く助成金が取れたとしても、その分赤字が全額減るわけではない。そこから家賃や人件費に充てられる部分もあると思うが、同時に、活動費もかかってくる。

小川：

補足的な確認だが、予算書の助成金100万円は、助成金の運用に必要な経費を除いた100万円ということなのか。去年は、その様な意図で書かれていた気がするが、同じ認識ということなのか。去年は、予算書を作る段階では、具体的な助成金等のイメージが付かなかった為、助成金の運用にかかる経費は、支出に計上せずに、固定費などに充てられる100万円を獲得するという意味で作成されていたと記憶している。

富田：

先程、話したことで被るが、助成金の100万円の内訳、用途、属性・内容によって変わってくるが、全額活用できて、プラスの活動経費が掛からないタイプの助成金であれば、100万円予算書どおりに受けることができればこの通りになる。家賃や人件費に使える金額が少ないという決まりのある助成金であれば、それに影響を受ける。

濱田：

今年度に関しては、実質的に100万円分全額を固定費等に充てられるという意味ではなく、今年度は、全体の金額として、100万円を目指す。先ほどの説明は、言葉足らずだった。

富田：

2021年度は、予算として、業務委託費の35万円を助成金を使って、運用しようと考えていたと推察するが、2022年度に関しては、計上されていない。金額的には、具体的なプロジェクトの経費は去年の予算に比べて、今年度は事前に計上されていない。100万円が家賃や人件費に使えるかもしれないが、助成金のルールによっては、NGかもしれないし、逆に、赤字が加算される可能性も、一応ありえる。

■ 報告事項に関連のある正会員からの事前にもらったコメントを紹介

※ 別途資料参照

大村氏：

コメントへの返答は共有されるのか。いいコメントがあったので、どう答えたのかもちゃんと読みたかった。

小川：

総会の議事録を作成し、正会員の皆様にご連絡する際に、同時に共有する予定。

その後、報告事項 1 及び、2 について、合わせて質疑応答を行った。

【質疑応答・意見交換】

小川：

事前のコメントに対して、特に返答がないということだが、例えば、赤字をどう解消するかなども挙がっていたが、目指す形は、ある程度みんなで議論しないともったいないこともあるのではないかな。今の印象だと、西島事務局長の時代に戻ろうとしている様にも思える。フルタイム有給スタッフが居る状況などであろうか。それが悪いということではないが、同じ様な課題が出てくるのではないかな。これから話すのであろうが、また同じサイクルになるのでは。例えば、再び事務局長がいなくなって、どうしようという様な状況になるのではなからうか。それで良いのなら、良いのであるが。どこまで話すのかにもよるのであろう。例えば、有給スタッフと事務所を失くすということの本気で考えてもいいかもしれない。その場合、単純計算で、赤字が大きく解消されて、今の貯蓄でも、10 年以上続けられることになる。今の段階でまとまったものは求めているが、意見があれば、聞きたい。

濱田：

昨日、三本・大坂と話した中では、プロジェクト数を戻すことは重要視していない。たしかに昔は 7、8 個プロジェクトが併存する時代はあったが、現在は ESG ウォッチとエコ貯金ラボという 2 つのプロジェクトがある。ESG ウォッチの中から派生してもいい。これ以外でも、「これがやりたい」という人が来て、新しいプロジェクトが出来てもいい。プロジェクトの数ではなくて、質であり、成果であり、活動メンバーがやりたいことをやるということと、楽しくやれるが大事だと思う。そこを軸にした上での活動のあり方だと思っている。その上で、事務局体制としては、有給スタッフを戻していこうという話はなかった。スリム化、アーカイブ化は、考えていて、一部既に行っている。事務所は、移って場所はあるが、固定費が維持費としてかかっている。そこをどうしていくかは、具体的などころまでは至っていない。引き続き議論はしていこうと考えている。西島事務局長の時代に戻すというイメージは持っていない。

大村氏：

意見交換的に発言する。体制的なところでいくと、収支改善に努めるしかないと思う。固定費の削減はだいぶ進めていると思うので、その場合、経費削減よりも、収入をどうするか。会費収入を考えると、SPRING 会員は去っていくばかりと思う。個人的に OGOB には、会費面は期待できないと思う。ちなみに、興味がないなら、去ってもらっても構わないと思っている。そういう意味でこれからどうやって収入を増やしていくかどうか。事業型の NPO ではないので、少しでもメンバーを増やし、アウトリーチ企画やオリエン強化に繋がるのかなと思う。学生が会費を少しでも払いやすいのが大事なかなと思う。メンバーがとにかく増えれば、会議も大きくなり、活動の内容も厚くなり、社会に対して、価値を提供で

きると思う。

別件で、小さな話だが、予算であったオリコの寄付金とは何か。

濱田：

昔から寄付をいただいている。

大村氏：

良くも悪くも、SDGsなどで企業の目線がNPO連携に目を向けてきているので、企業などの金があるところからの寄付があればいいのではないかと。賛助会員や団体会員として3万円払ってくれるところが増えるのはどうか。事務局体制や今後の活動次第ではシンプルな収入改善といえる。いきなり複数企業の支援を受けるとするのはハードルが高いかもしれないが、ASJあるいは広くNPO運営に長く携わってきたメンバーの意見を聞きたい。

三本：

NPOの財源構成として、30%助成金、30%会費寄付、30%事業収入だとバランスが良いと言われている。アシードはOGOBの皆さんが貯めてくださったお金を使い潰している状態にある。自主事業のところで、ワークショップをパッケージにして参加費を集めるなどできることがあるのではないかと考えている。昨年度は、自主事業としては、ESGウォッチの勉強会とOGOBに話してもらった3月のエコ就職カフェしかなかった。そのあたりをより魅力的にしていこう。勉強会は、得たい知識があって対価としてお金を払うという分かりやすいもので、考えやすいと思う。企業との協働は、以前労金などエコ貯が勉強会や研修を実施して対価を得ることがあった。企業との繋がりを作っていくということでは、現在ジョンソン・エンド・ジョンソン社員のプロボノによるプレゼンテーションスキルアップのワークショップに、チームメンバーにも参加してもらっている。企業の人々と対話できるようなビジネスマナーを身に着けるのもよい。会費・寄付に関しては、マンスリーサポーターを増やそうと鈴嶋が頑張ってくれている。

大村氏：

企業は企業で、NPOを求めている。アシードはネームバリューもいい。アシードの事業収入はごみゼロナビゲーションの様なものをイメージしていたが、今のNPOは「講師派遣」を事業収入とする例が多い。とあるスターが1人居て、その人が行くだけで20万円取れることもある。そういうこともできると思う。事業収入アップも考えられるのでは。エコ貯金ラボも学校の講師派遣をしているし、雑誌のインタビューもお洒落だったので、まだまだネームバリューもある。

鈴嶋：

ジョンソン・エンド・ジョンソンのプロボノ社員によるワークショップに参加している。NPOに関わりたい企業の人々と関わりつつ、アシードの若者、環境NGOの知見を伝えていきたい。マンスリーサポートを増やすための施策をしている。定期的な活動報告や未来志向の活動（予定）報告と合わせて、

寄付の願いを定期的に出していけるといいのではないかと考えている。現在の会員や過去のイベント参加者などにも発信していきたい。事業収入の話があったが、自分たちにしか提供できない経験やコンテンツを持つことが大事である。今の ESG ウォッチには、それらが欠けている。現在は、新聞記事で取り上げられた問題を題材にして勉強会を行ったりしている。実際に現場に行って、見てきた問題を ESG ウォッチの視点で分析して、セミナー・勉強会を行うなどの形にすると、参加費を頂戴する価値が生まれるのではないかと。活動の中でそういったコンテンツ、知識、経験を蓄積していく必要があるのではないかと。

富田：

オリコからの寄付の件の補足。クレジットカードに関連する寄付をかなりずっと以前から毎年いただいている。カード利用の内、一定のポイントが、登録している NPO などに自動的に寄付される。その中に A SEED JAPAN もある。だいぶ情報が古くなっている。おそらく、A SEED JAPAN への指定というよりは、オリコに登録されている団体それぞれに振り分けられる形だと思う。

※LOVE THE EARTH カード

<https://www.orico.co.jp/creditcard/service/earth-donate/>



田川：

オリコへの活動報告等は、行っているのか。

富田：

かなり前にオリコの担当者の方が活動状況の確認に来られたことがあったが、A SEED JAPAN からの自発的な報告等は特に行っていない。

大村氏：

私事だが、転職先が CSR コンサルとなるのでコメントすると、それはコーズ・リレーテッド・マーケティング（売上の一部を寄付等に回す）という一番分かりやすい企業の CSR 手法に見える。一昔前に流

行った企業の CSR の代表的なもの。そういう意味で、オリコはパツとしない CSR だと思った。だからあまりモニタリングもせず、当時ネームバリューのあった A SEED JAPAN を寄付先に選んでくれているのだろう。いわば諸刃の剣であり、現時点でこちらから連絡すると、寄付がなくなるかもしれないが、将来的には敢えて踏み込んでいっても良いかもしれない。担当者に確認して、「今のやり方は古いので、協業で、金融系の事業をやりませんか？」など次の提案ができるのではないか。

三本：

セブンデイズという企業からも寄付をもらった。パタゴニアの寄付サイトから来てくれた。濱田、三本、鈴嶋で活動報告し、理解していただいた。

田川：

今回のオリコの対応は、私は大村さんに賛成で、まだ自らオリコに働きかける段階ではないと思う。私も仕事で、NPO などへの寄付の審査を行っているが、審査するときにフルタイムスタッフがいない時点で、「この団体は、大丈夫か？」と思う。寄付がしっかりと活動に活かされているかどうかが重要なので。A SEED JAPAN は、併記されている 2 つの団体と比べて弱い。もう少し基盤を固めてからでもいいのではないか。

報告事項 3：2022 年度役員について

2021 年度役員（濱田、三本、大坂、田川、矢口）を紹介した後、理事会で承認された 2022 年度の役員、濱田恒太郎、三本裕子、大坂紫、田川道子、鈴嶋克太、矢口拓也より、担当分野および意思の表明を行った。

濱田：

去年は総会で、大変な状況を心配された。この 1 年で具体化されたこともある。そこからパワーアップできる様にこの 1 年やっていきたい。皆さん引き続きよろしく願いたい。

三本：

今日たくさんご質問いただいた財政や組織の姿を、理事や活動会員と作っていきたいと思う。

大坂：

初めての理事 1 年目が過ぎた。3 か年計画も 2 年目。また盛り上げていけるように、頑張っていけたらと思う。

田川：

活動予定でも話したが、考え方がまとまらないこと部分や悩み事が多く、年齢的にも体調の部分が思うようにいかないところも出てきているが、もう少し早めに整理して、発信していければと思う。

鈴嶋：

この数か月事務局の仕事をしながら、理事の人とも話をする中で、去年の総会で色々な意見を貰って、心配されていたことを知らなかった。親が、子どものことを心配する様なもので、子どもは心配されてもそれを跳ね返して、自立して歩いていく感じになればいいと思っている。ESG ウォッチの活動を頑張りたい。

矢口（欠席・代読）：

「本日は、総会に参加できず申し訳ありません。過日、理事の皆様説明を受けながら監査をさせていただき、2021年度は30周年を迎えこれらに向けて足掛かりとなる転換点の年になったのではと感じ取ることができました。今年度は事務所も移転し、新たなステージを作り上げていく時に、微力ながら携わらせていただければと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。」

【参加者からのコメント】

小川：

特にない。事前のコメントに対し特に回答をもらっていないからである。現時点で理事会から特に何も言えないということは理解した。

富田：

質疑で話せなかったのだが、事務局の体制は、2019年度まで20年ぐらい？ずっとフルタイムスタッフが必ず1人はいた。2020年度からフルタイムスタッフがなくなった。今年もフルタイムスタッフがいない状況で、パートタイムスタッフを増員するという新しい試み。フルタイムがいない状況で、フルタイムではないパートタイムスタッフだけが増えていくことはなかった。是非は分からないが、良い方向になればいい。今後の状況は変わらないが、興味深く見ていきたい。

呉氏：

予算のところは難しかったが、総会に参加してなにがしか学ぶことはあったと思うので、参加してよかった。

大村氏：

総会は、ここ4年くらい連続で出席している。理事の皆さんは、苦労された3-4年間なのではないだろうか。解決されたこともあるし、3か年計画の最後は、頑張っていけたらいい。漠然とではあるが、「理事やろうかな？」と思うこともある。一方で転職することもあり見通しがたない現状もある。遊軍的に頑張りたいので、やれることは声をかけて欲しい。

7. 議事録署名人の選任

議長より、議事録署名人として、田川道子と鈴木克太の2名を指名したいとの提案があり、これを諮ったところ全員異議なく承認された。

以上の報告を持って、議長は17時00分閉会した。

以上